

国際貿易と国際金融

王 怀 宁 編著

長 谷 川 幸 生 共訳
須 藤 正 親



中央大学出版部

国際貿易と国際金融

王 怀 宁 編著

長 谷 川 幸 生 共訳
須 藤 正 親

中央大学出版部

资本主义国际贸易与金融

王 怀 宁 编著

·*

中国财经出版社出版

新华书店北京发行所发行 各地新华书店经售

北京印刷二厂印刷

·*

1980年1月第1版 1980年1月北京第1次印刷

まえがき

本書『國際貿易と國際金融』は、國際間における商品資本と貨幣資本の運動を研究しようとするものである。

マルクス主義政治経済学の基本原理を運用し、商品資本と貨幣資本の國際流通領域における運動を分析し、資本主義的國際經濟關係の階級的実質と内部矛盾を明らかにし、その發展の方向と法則とを把握することは、四つの近代化の実現に寄与するにあたって、われわれが資本主義貿易と國際金融を研究するうえで、まず着手しなければならぬ点であり、またそれこそがわれわれの主要任務でもある。

商品生産は、資本主義制度のもとで最高度の發展を遂げうるものである。「社会の富は、一つの『巨大な商品の集まり』として現われる」⁽¹⁾のみならず、「ブルジョアジーは、世界市場の開発をつうじて、あらゆる国々の生産と消費を全世界的なものにした」⁽²⁾のである。商品生産の高度な發展がなければ資本主義は存在しえず、またひるがえっていえば、資本主義体制の生成が商品生産を世界的規模にまで広げたのである。およそ資本主義は貿易を離れては存在しえず、また貿易の發展が必然的に國際通貨金融關係の發生を促し、その複雑さと緊密さを強めたのである。すなわち、資本主義のもとでの貿易と國際金融關係の發生、ならびに広範囲にわたるその發展が、商品生産と資本主義的生産様式の内的法則を規定しているのである。したがって、われわれが資本主義のもとで

の貿易と國際金融を研究するにあたっては、商品資本の運動と貨幣資本の運動を切り離して理解してはならないのであり、商品売買と貨幣支払いに現われる現象を資本主義的關係全体のなかでとらえ、帝國主義の歴史的段階においてそれらが全面的に進展していることを深く掘り下げて考察しなければならないのである。

資本主義的生産ならびに生産關係の發展にともない、とりわけ生産の社会化と國際化がすすみ、資本主義貿易の規模は引き続き不斷に拡大を示している。現在の資本主義の貿易総額は一兆二千億米ドルに達しているが、これは戦前の貿易額二三〇億米ドルの五〇数倍、戦後初期の五〇〇数億米ドルの二〇数倍である。この發展速度は過去のいかなる時期におけるよりも速い。國際市場の急速な拡大は、戦後資本主義經濟が比較的急速に發展した一つの重要な外部要因である。当然のことながら、貿易の發展と拡大にともなつて、帝國主義諸国の外國市場に対する依存度も高まり、それら諸国の國際市場爭奪戦もさらにし烈さをきわめた。帝國主義諸国の開發途上國に對する搾取も一段と強まっている。これらのことは、一面では帝國主義の寄生性と腐朽性が深化したことを反映したものであるといえよう。

貿易の發展は、必然的に國際金融の規模を拡大させる。すなわち、商品の國外での実現が貨幣資本の國際間の運動を引き起こすのみならず、大量の資本輸出自体がまた貨幣資本の國際的移転であるからである。國際的な政治と文化に關係した發展も、貨幣關係の發展を引き起こす。この結果生ずるあらゆる國際間債權債務とその決済、およびそれを基礎として形成される國際通貨市場と國際通貨信用制度こそが、資本主義國際金融の最も基本的な内容を構成するものである。

資本主義のもとでの貿易と國際金融の不斷の發展は、資本主義的搾取關係の國際的規模での不斷の發展をと

ない、また同時に帝國主義諸国間の争奪の度を強め、かれらの第三世界に対する略奪と支配を強める過程でもある。当然、およそ事物には二面性があるように、帝國主義諸国と第三世界諸国との間の貿易ならびに金融關係の發展も、また二面性をもっている。それは、一方では第三世界諸国の生産力と資本主義的生産關係の發展を促進し、他方では資本主義の國際的搾取關係を拡大深化させる。資本主義のもとの貿易と國際金融の絶えざる發展にしたがい、帝國主義諸国と第三世界人民との矛盾は激化してきている。現在、第三世界諸国とその人民は、古い國際經濟秩序を打破し、新しい國際經濟關係を建設するために、果敢な闘争を展開しているが、これはまさに一つの矛盾の發展の集中的な現われであり、その必然の結果である。こうした視点からみると、資本主義的生産様式に内在する矛盾の絶えざる激化は、貿易と國際金融の領域での諸国間の激烈な闘争をつうじて、いっそう明瞭に現われてきているのである。

わが国人民は、四つの近代化推進に向かって奮闘努力するさなかであって、当然、世界各国の貿易・金融關係との結びつきをいっそう發展させなければならない。ところが、林彪や「四人組」らが横行した時期には、われわれが貿易と開発に必要な國際金融關係の正常化を遂行しようとする、もっぱら「売国主義」「洋奴哲学」として、ことごとく誹謗されてしまった。かれらの罪惡は意図的なものであって、偉大なわが社会主義祖国を、やみくもに閉鎖的な、愚昧で遅れた封建主義、はては奴隸社会にまで後戻りさせ、もってかれらは封建的ファシスト王朝を建設しようともくろんだのである。かれらはさまざまな謬論をまき散らし、人びとの思想を混乱させた。こうしたことから、今日のわれわれは、貿易と國際金融關係の發展が社会主義經濟建設の事業を促進するうえで、もつ重要な意義を、あらためて正確に認識しなければならないのである。全力をあげて貿易と國際金融關係を發

展させる過程において、われわれは、一方では、外国の先進的科学技术と管理経験をさらによく利用するために貿易と国際金融関係を役立たせ、われわれが活用するために他人の長所を学ばなければならない。また一方では資本主義国の対外貿易の階級の本質を冷静に理解し、経済交流のなかで方向を見失うことのないようにしなければならない、そうして四つの基本原則、すなわち社会主義の道、プロレタリア独裁、党の指導、マルクス・レーニン主義と毛沢東思想を正しく堅持することに役立てなければならないのである。これが、われわれが貿易と国際金融問題を研究するにあたって、必ずとらねばならない正しい姿勢である。また、われわれのこの小著が、資本主義貿易と国際金融問題の紹介をつうじて、多くの方がたにいささかなりとも役立てば幸いである。

しかし、著者の理論水準と実務理解には限界があるので、この小著には少なからず欠点と誤りがあるろう。皆さんの批判と援助を切に希望し、もって本書を再版する機会があるときに、訂正し内容をよくすることができようにしたい。

一九七九年五月

(1) マーク思『資本論』第一巻、人民出版社一九七二年版、第五頁（大月書店版『マルクス・エンゲルス全集』第二三a巻、四七ページ）。

(2) マーク思・恩格斯『共産党宣言』、『馬克思恩格斯選集』第一巻、人民出版社一九七四年版、第二五四頁（大月書店版『マルクス・エンゲルス全集』第四巻、四七九ページ）。

目

次

まえがき

第一章 資本主義経済に対する貿易の意義……………一

第一節 貿易は資本主義的生産様式の前提であり結果でもある……………一

第二節 資本主義国の経済発展に対する貿易の二つの役割……………八

第三節 貿易は帝国主義的争奪の重要な領域である……………一六

第二章 資本主義国の対外貿易の政策と理論……………二七

第一節 自由貿易および保護貿易の政策と理論……………二七

第二節 超保護貿易の政策と理論……………三六

第三章 資本主義国の貿易障壁と輸出奨励措置……………四七

第一節 資本主義国の関税……………四七

第二節 資本主義国の非関税障壁……………五五

第三節 資本主義国の輸出拡大措置……………六二

第四章 戦後国際貿易の発展と主要資本主義諸国の対外貿易……………六六

第一節	戦後国際貿易の急速な発展とその原因	六
第二節	アメリカ合衆国の対外貿易	三
第三節	日本の対外貿易	八
第四節	EC諸国の対外貿易	九
第五章	資本主義国際貿易における搾取と反搾取闘争	九
第一節	鉄状価格差は国際的搾取の重要な手段である	九
第二節	帝国主義諸国の国際貿易支払いに対する支配	一〇
第三節	開発途上諸国の対外貿易構成における不利な立場	一〇
第四節	開発途上諸国の国際貿易の領域における反植民地・反覇権闘争の発展	一四
第六章	資本主義国の国際収支	一五
第一節	資本主義国の国際収支表	一五
第二節	資本主義国の国際収支の分析	一五
第三節	資本主義国の国際収支の不安定性	一六
第七章	資本主義国の国際決済と外国為替	一五

第一節	資本主義国の国際決済……………	一四
第二節	資本主義国の外国為替相場……………	一五
第三節	資本主義国の外国為替政策……………	一六
第四節	資本主義国の外国為替市場……………	一七
第八章	資本主義国の銀行と銀行制度……………	一八
第一節	資本主義国の銀行の性質と役割……………	一八
第二節	主要資本主義諸国の銀行制度……………	二〇
第九章	資本主義通貨信用制度の危機の発生と影響……………	二〇
第一節	資本主義通貨信用制度の危機の発生……………	二〇
第二節	戦前の資本主義通貨信用制度の危機の発展と影響……………	二六
第一〇章	戦後実施された米ドルを基軸とする資本主義国際通貨制度……………	二六
第一節	米ドルを基軸とする資本主義国際通貨制度の設立……………	二六
第二節	IMFならびにその他国際金融機関の役割……………	二六

第三節 戦後初期の帝国主義諸国による通貨戦争	二五
第一章 米ドル危機と相対的に統一された 資本主義国際通貨制度の崩壊	二六
第一節 米ドル危機の発生と展開	二七
第二節 米ドルを基軸とする資本主義国際通貨制度の崩壊	二七
第二章 資本主義「国際通貨制度改革」と 帝国主義諸国の通貨戦争の激化	二八
第一節 資本主義「国際通貨制度改革」の過程	二八
第二節 「国際通貨制度改革」をめぐる矛盾と闘争	二八
第三節 帝国主義国の通貨戦争の一層の発展	三〇
訳者あとがき	三九

第一章 資本主義經濟に対する貿易の意義

第一節 貿易は資本主義的生産様式の前提であり結果でもある

資本主義貿易は、商品資本の國際間における運動の具体的な現われである。資本主義貿易の發展と世界市場の拡大は、ともに各国の資本主義的生産様式の生成と發展に対して緊密な關係をもっている。

マルクスは指摘している。「貿易の拡大は、資本主義的生産様式の幼年期にはその基礎だったとはいえ、それが進むにつれて、この生産様式の内的必然性によって、すなわち不斷に拡大される市場へのこの生産様式の欲求によって、この生産様式自身の産物になったのである。」⁽¹⁾

われわれは、資本主義の生成と發展過程における貿易の重要な意義を、三つの側面からとりあげることができる。

(一) 貿易は、資本主義的生産様式の生成を促進した。

貿易の發展は封建主義的生産様式の基礎を破壊し、資本の本源の蓄積過程を促進し、資本主義的生産様式の生

成に非常に大きな役割を果たした。一方で、貿易の発展は資本の市場を拡大させ、労働力と原料などに対する資本の需要を増大させ、このことから資本の農民に対する搾取過程をいっそう促進した。たとえば、イギリスでは、一五世紀前後に「囲い込み」運動が起こり、国外へ大量に販売する紡績品の羊毛原料を提供できるようにするために、農民を耕地から追い出し、農園を牧場に変えたのである。農民は破産し、その他の小生産者もまたたく間に分解した。広範な農民と小生産者は無産者と化し、労働力を売るしかない賃金奴隷に転化した。このことが資本主義的生産様式を急速に発展させるために労働力を用意したのである。また一方では、貿易の発展は、新興ブルジョアジーに、商品交換や奴隷販売などをつうじて、世界各地から大量の貨幣資本を略奪させ、それによって資本の本源の蓄積過程を速め、資本主義的生産様式の発展のために必要とされる基礎を提供した。一六―一八世紀の間だけで、ヨーロッパのブルジョアジーは、黒人販売と不等価交換によって、世界各地から金二万トン、銀一・二万トンを収奪した。貿易の発展は、資本に広範な外国市場を提供しただけでなく、新しい巨大な原料供給源をも提供したのである。これらは、資本主義的生産様式にとっていづれも不可欠のものであった。

だが、すでに指摘したように、貿易の発展は資本主義的生産様式の生成を促進しただけであって、資本主義的生産様式の確立を規定したわけではない。したがって、貿易は、一国の資本主義的生産様式の生成と発展にとってはしよせん外部条件をなすにすぎない。資本主義的生産様式の生成を規定するのは、ひとえに社会的生産力の発展と生産関係の変化であり、貿易は外部条件として、社会発展の内的法則をつうじて役割を演ずるのである。

まさしくマルクスが指摘したように、「一六世紀に、また一部分は一七世紀にも、商業の突然の拡張や新たな世界市場の創造が古い生産様式の没落と資本主義的生産様式の興隆とに優勢な影響を及ぼしたとすれば、このこと

はまた、逆に、すでに創出されていた資本主義的生産様式の基礎の上で起きたのである。世界市場は、それ自身、この生産様式の基礎をなしている。他方、この生産様式に内在するところの、絶えずより大きな規模で生産するという必然性は、世界市場の拡張に駆り立てるのであり、したがってここでは、商業が産業を変革するのではなく、産業が絶えず商業を変革するのである。⁽²⁾つまり、資本主義的生産が貿易を規定し、この貿易がまた資本主義的生産様式の発展を促進するのであって、その逆ではない。これは両者の弁証法的関係による。

(二) 貿易は資本主義的生産様式自身の産物である。

貿易が資本主義的生産様式のもとで急速に発展するのは、資本主義的生産の内的法則に規定されるものであって、一つの必然的傾向である。

第一に、それは資本主義の利潤法則によって規定される。

資本家は、より多くより大きな利潤を追求するため、絶えず資本を追加し、生産を拡大し、「資本主義的な基礎のうえでは、商品資本の量もその価値量も、ただ絶対的により大きいだけではなく、比べものにならないほどより大きい速度で増大」⁽³⁾するようにしむける。このためには、拡大深化する国内市場が必要であるばかりでなく、あらゆる地域と国家の境界を打破し、国外にいたるまで市場を求め、世界市場を開拓し拡大する必要があるのである。利潤の追求は、資本主義的貿易の発生と発展に内在する動力であり、貿易はブルジョアジーが超過利潤を獲得し、資本蓄積を速め、資本主義的生産関係を世界的規模にまで拡大する重要な手段である。

第二に、それは資本主義の競争の法則によって規定される。

残酷で激烈な競争は、資本家に絶えず自己の生産能力と生産規模の拡大を迫る。このような状況下において、資本家は、既存の市場にだけ目を向け、国家の境界内にとどまっていることができない。かれらは、絶えず生産を拡大するために外国市場を求め、世界各地を奔走し、国際間貿易を大いに発展させる。国際間貿易においても同じように激しい競争が存在しており、したがって資本家をして生産をいっそう拡大し、またより多くの市場を取得する能力をよりいっそう高めさせるようにしむける。これは、資本家の個人的願望いかにによってどうにでもなるというようなものではなく、資本家は、つねに資本の人格化にすぎず、資本の運動の内的法則にしたがい、これを駆使しているにすぎない。もしこの法則にしたがわないならば、かれは生死をかけた残酷な競争に敗北せざるをえず、生存の基盤をまったく失うにちがいない。

第三に、それは資本主義的生産の発展が不均等であるという法則によって規定される。

資本主義的再生産過程が内在的に必要としているのは、各生産部門間に一定の比例関係が保たれることである。ところが、資本主義的生産の競争と無政府状態は、資本主義的国民経済の均衡のとれた比例的発展を不可能ならしめている。生産部門の発展は急速なときもあれば、緩慢な場合もある。こうして、生産部門の発展があまりに急速であると、必ず大量の過剰商品が出現する。こうした部門の過剰商品が国内で販売しきれないときには、国外に市場を求めるほかに、そうでなければ再生産過程を正常にすすめることはできない。これについて、レーニンは『相互に『市場』として役立つ種々の産業部門は、均等に発展するものではなく、相互においこしあっている。そして、より発展した産業は外国市場を求めるのである』と述べている⁽⁴⁾。また同時に、一方では生産の発展が相対的に遅れた部門があるために、それによって発生した不足する商品についても、外国市場にその補充と

供給を求めるようになり、こうした商品の需要に対して国内生産と消費を満足させる。したがって、資本主義国の各生産部門間の発展が不均等であることが輸出を必要とし、また輸入をも必要とするのであって、これら二つの面から貿易を発展させているのである。

第四に、それは資源分布の不均等と国際分業の進展によって規定される。

各国の国土の規模が同一でないように、天然資源の賦存状況も同じではない。私的所有の条件のもとでは、各種天然資源の調達は当然のことながら交換をつうじてのみ実現される。資本主義国の生産規模が拡大するにつれて、生産の社会化と国際化の程度は不断に高まり、これがさらに国際間での資源調達と商品交換を発展させることになる。生産の社会化と国際化はまた国際分業の発展を大いに促進する。国際分業の拡大は当然貿易の拡大をも意味している。たとえば、マルクスはつぎのように指摘している。「分業は、大工業が本国の土地から離れてもっぱら世界市場、国際交換、国際分業に依存するほどの規模の大きさに達することができた。」⁽⁵⁾

このことから、貿易の広範かつ急速な発展は、もともと資本主義的生産様式に内在する法則の然らしめるところであり、また資本主義經濟の一つの重要な特色をなしているとみることができる。これは、資本主義が封建主義に比べて大きく進歩した点である。ちなみに、貿易は封建主義の閉鎖性と小生産の狭い限界を打破し、生産力を飛躍的に発展させることになったのである。貿易は国際分業の拡大を促すことによって、各国の人力、物力および資源を、封建主義の条件下におけるよりも、いっそう十分かつ有効に利用できるようにしたのである。戦後、貿易の急速な発展が資本主義諸国の經濟に対して果たしている積極的な役割は、とりもなおさずこうした点を説明する最も新しい例証である。